



大山 晃 議員

ゆいきららの展望は

総合窓口課長 利益の出る運営体制へ



「田舎の居酒屋」



「ゆいきらら」に集った九州ラリー選手権出場車

問 組織の運営体制は。
末松総合窓口課長 10名の委員で運営を行っている。役割分担は、委員長、副委員長、事務局長の3名が役員である。

問 委員の10名の方は毎日出勤しているか。
末松総合窓口課長 地域活性化に意欲のある方で、管理人、調理人など必要に応じて出勤している。

問 賃金は時給か、日給か。
末松総合窓口課長 協力していたいただいた方に、日給や時間給ではなくお礼として、委員会が決めた金額を支払っている。管理人は5名、調理人は22名が登録している。

問 ボランティアとしての取り扱いなのか。
末松総合窓口課長 有償ボランティアである。原則として、管理人1日2千円、調理人は一回それぞれ750円である。

問 どんな保険に加入しているか。
末松総合窓口課長 個人の保険で対応してもらっている。利用者の食中毒、ケガなどの保険については、現在保険会社に見積を依頼している。

問 1年運営してきた中で、十分な経営内容になっていないと思う。協力してくれるスタッフの皆さんと運営するのだから、もう少し良い条件をつけたいと来てくれなくなるのではないかと思うがどうか。
末松総合窓口課長 実際には協力していただいている方は、現状を理した上で協力いただいている。こうした類似施設に聞いてみるとケガなど、利用者の面では保険に入っているが、スタッフの労災保険や雇用保険は入っていないようである。運営委員会では雇用保険、労災保険は今のところはいる予定はないと聞いている。

問 今後の集客手段は。
末松総合窓口課長 イベントなど振興課と連携をとって、県のソフ



「ゆいきらら」宿泊1000人目

問 黒字を出すと言うのではなく、補助金投入が無駄にならないよう、しっかり運営をしてみたいが。
末松総合窓口課長 町として月一回の運営委員会に出席し、いろいろな提案を行っている。今後も収益の出る運営につながるよう指導していきたい。

宮崎 昌宗 議員

行政の信頼を取り戻せるか

町長 粘り強く、責任を果したい



問 民間の被害額は。
尾崎企画情報課長 従業員の3月分の給料及び、さわやか市出荷者の165名、約925万円が未払いである。それ以外の未払いも多々あるようだが、金額は把握していない。前管理者と対象者との契約事項なので、町としては事務所の連絡先を教えている。

問 さわやか市は町が条例を設けて行う事業で、町の事業を前管理者に委託したに過ぎないので、町が補償すべきでは。
尾崎企画情報課長 あくまでも、

問 指定管理（大平楽・さわやか市など）の変更で前管理者（樹果樹農園森の風及び樹大平楽）との引き継ぎトラブルの原因と責任は。
鶴田町長 前管理者の契約違反に起因し、責任も前管理者が果たすべきと考えられる。しかし、町の主導性ということでは、指定管理者の適正な把握と指導が不十分であったので、責任の一端は行政にあることは否定できない。

問 町が受けた被害は。
尾崎企画情報課長 修繕費（2870万円）、職員の超過勤務手当（50万円）、新管理者（有エイト）に対する営業補償（680万円）などで、約3600万円である。この被害に対しては、損害賠償の提訴を行う。

問 一時期、地元紙の広告に「大平村街道」と名前が出ていた、今はホームページなども見当たらないが。
尾崎企画情報課長 新管理者が名前をつけて宣伝していた。現在名前を検討中で、近々、愛称として名前を決定し、決まり次第、ホームページで周知し看板の設置などもすると聞いている。

※町より指定管理を受けた、各施設の総称・愛称として「東九州道中 こうげ武楽里」となった。

問 刑事事件として扱い、詐欺罪・威力業務妨害・横領罪などで警察に被害届を出すべきではないか。
尾崎企画情報課長 詐欺罪については弁護士、威力業務妨害については警察に相談したが、難しいようだった。横領罪については、出荷者が訴訟を起こすときに、弁護士に相談していただければと思う。

新管理者有エイトの管理状況は

町の危機管理体制は

問 今回の指定管理の騒動は町の危機管理機能が果たせなかったのでは。また、職員がオーバーワークでは危機管理が果たせない。仕事量を考えて配置は適正なのか。
鶴田町長 行政改革として職員数を削減してきた。担当課に対してオーバーワークかもしれない仕事を課したことは、反省している。しかし、だからこうゆう問題が起きたことにはならない。職員全てが所管事項について最善を尽くすことが使命である。私を含め、もう少し最善の努力することが不足し、それが責任の一端であると考えられる。



「東九州道中こうげ武楽里」看板